

太陽光発電事業説明会

4月29日、根室市総合文化会館において、『根室月岡太陽光発電事業 第3回 説明会』が開かれました。主催は事業者である自然電力グループです。



この説明会は、御存じのとおり、月岡町に建設予定のメガソーラーについて行われるものです。

冒頭、事業者から、会社情報、根室月岡太陽光発電事業について（事業概要、これまでの対話で挙げたトピック、地域と共につくる）、その他について説明がありました。

根室月岡太陽光発電所は、月岡町の42ヘクタールの土地に、初年度想定発電量3万9千450メガワットの規模で、本年6月に工事開始予定（11月まで）、2028年12月運転開始予定となっています。

事業者によると、これまでの地域との対話の経緯は、事前説明として市議への説明、宝西町会館での事前相談会など個別に事業概要を説明、昨年11月25日に第1回説明・対話会、事後相談会として計9回実施、本年2月5～7日にかけて第2回説明・対話会として5回実施され、当日は、

20回目の説明会であるとのことでした。

これまでの対話で挙げたトピックとしては、発電所建設・運営状況の共有と協議や地域課題解決への連携・企画を目的とした、市民、行政・地域関係機関、発電所事業者からなる「地域共生準備会」を建設期間中からの設置検討、景観・反射光の影響の緩和につながるパネルレイアウトの変更、シカや熊などの動物対策、火災対策、廃棄物の撤去等に関する影響及び予防措置、工事関連車両の通行についてなどが挙げられました。

地域と共につくる取り組みとしては、これまで同社が各地で行ってきた事業が紹介されました。根室市においては、今後「地域共生準備会」などで何が行えるのか。検討していくとのことでした。

参加者からは、先日の歯舞での野火の経験から、発電所の火災対策について、多くの質問がありました。その他、ソー

ラーパネルのリサイクルの問題、景観、市民合意の形成や地域共生準備会などについても疑問、懸念などがありました。

鈴木一彦議員は、「現状地形の維持や、可能な限りの植生の維持が言われているが、キュービクルの設置などで地形や植生は変わる」と指摘。根室の貴重な植物への影響が懸念されると述べました。

橋本竜一議員は、隣接する西浜町側にやはりメガソーラー建設を予定している事業者との関係性を再確認。事業者は、現在は関係がないと答えました。

昭和町の神忠志氏は、発電所と生活圏との距離を問い、事業者は最短で8メートルと答弁。神氏は「近すぎる。『平穏生活権』が侵害される」と指摘。

西浜町の手繰満氏は、「根室には何もないといわれるが、何もないのがよいと思う。再エネの地産地消ができれば」との意見を述べました。